

一、準備・情報収集・安全確認は怠らない

野営に向かう際は、持ち物はもちろん、水道やトイレの有無、現地の天候や川の増水、高波、野生動物の目撃情報、土砂崩れの発生有無、携帯電話の電波状況などを入念にチェックしましょう。

一、無理は絶対にしない

どんなに慣れた人でも自然の力の前では無力です。また、ソロキャンプ(特に完ソロの時)では、怪我や病気は即、命に関わります。何かあった時の唯一の回避方法は「撤退すること」です。天候悪化、怪我、病気、野生動物の発生、川の増水や高波、土砂崩れなどの恐れがあった場合、絶対に軽視したり、無理したりせず、すぐに撤収して帰宅しましょう。

一、周りに迷惑をかけない

キャンプを楽しむのは自由です。特にソロキャンプではその自由度が格段に増すことでしょう。ただし、自由なことと自分勝手なことは全く違うことだと認識しましょう。

一、来た時より美しく

自分で出したゴミは必ず持ち帰りましょう。他人が出したゴミであっても、帰りの荷物に余裕がある時は拾って持ち帰りましょう。

詳細は日本単独野営協会公式サイト
「初心者部屋」をご覧ください。

https://tandokuyaei.com/?page_id=370



ソロキャンプは1人で行うものですが、1人でやるからこそ定期的な情報収集や人と人との繋がりが重要になります。日本単独野営協会では不定期にソロキャンパー同士が集まる無料キャンプイベントを開催しています。初心者の方は上級者の方からのソロキャンプ術のレクチャーを受けることができ、上級者は情報交換や他キャンパーのキャンプスタイルの研究をするなど有意義な時間を過ごすことができます。

定期的な清掃活動の実施

日本単独野営協会では、野営地保護のための「清掃活動」を定期的実施しています。

ゴミの不法投棄や焚き火跡の放置が横行すると、野営地はすぐに使えなくなってしまいます。誰もが野営地をいつまでも綺麗に気持ちよく利用できるよう、定期的に清掃イベントを実施しています。



焚き火跡は必ず元通りに

焚き火跡の放置はいけません。

直火での焚き火は片付けるのに大変な労力を要します。火が消えていると思って片付けずに放置して帰り、後から延焼したという話もあります。

綺麗に元通りにできない人は、必ず焚き火台を使用して、燃え残りは自宅までしっかり持って帰って捨てましょう。



ご連絡・お問い合わせは

日本単独野営協会へのご質問・お問い合わせは以下よりお気軽にご連絡ください。

【メールでのお問い合わせ】

inquiry@tandokuyaei.com

【ホームページからお問い合わせ】

<https://tandokuyaei.com/>

